

平成 28 年度議会報告会を起点とした社会文教委員会の取り組みについて（報告）

飯田市議会社会文教委員会

はじめに

平成 28 年度議会報告会分科会のテーマ設定の背景に記載したが、飯田サッカー協会及び飯田ラグビーフットボール協会から飯田市議会議長宛に要望書が提出されたこと、昨年度（27 年度）の議会報告会の分科会の中でも一部の市民から提案があったこと、議員の一般質問等でもたびたびこれらの件に関して取り上げられたこと等から、平成 28 年度の議会報告会分科会のテーマとして、市民の皆さんのご意見を伺った。

あわせて、委員会としても、「園庭の芝生化」に関し先進地の取り組みを視察し、調査研究を行ってきた。

今回は、3 の理由でも記載したが、市民の皆さんの意見を伺うにあたり、具体的な数字等を示し意見交換をしたものではないこと、各種団体の主張はそれぞれであり、委員会としては集約できないこと等があるが、議会報告会で出された意見やこれまでの委員会活動を踏まえ一旦総括し、委員会の提案として担当部署へ提出するものである。

1 平成 28 年度議会報告会分科会のテーマ

「体育施設のあり方と活用について」

～市民の健康増進と将来を担う子どもたちのために～

2 議会報告会で出された意見を踏まえての方向性（提案）

- (1) 議会報告会で出された意見として、飯田市体育協会からは、南信州地域全体の視点を持つ複合文化施設（体育館）の建設提案があり、ラグビー協会及びサッカー協会から、規格や用途はそれぞれだが、専用の芝生グラウンド建設の要望があった。また、市民がよりスポーツに親しめることが大切であり、今ある施設の存続、それに伴う改修を行い、スポーツ合宿や大会誘致が可能な施設としても、活用できるようにすべきとの要望もあった。

一方で、人口減の中で今ある施設の維持管理も財政的に困難であることや新たな施設についても 10 万人規模の都市にあるべき施設のあり方、建設費や維持管理費等の財政負担の観点、有料での観戦誘客増の観点、さらに拠点集約化の観点から議論すべきとの意見もあった。

つきましては、これらの意見を踏まえ、飯田市公共施設マネジメント検討の中で、リニア時代を見据え、スポーツ施設のあり方（新設及び改修も含め）について、早急かつ前向きに検討をされたい。

- (2) 保育園、幼稚園、認定こども園の園庭芝生化については、現場の声や地域の実情をよく聞き、これを踏まえ、実施主体への補助も含めたモデル事業としての実施を検討されたい。

3 委員会の提案として担当する部署へ提出する理由

- (1) 今回の分科会は、テーマについて広く市民の意見を聞くとの立場で望み、そのため、その場でも出された意見について、議員や市民の皆さんと意見交換は行っていない。(いわゆる社会保障関係経費の額や全国的な基準で算定した公共施設の維持管理費の額を資料で配付するなど、金額等を含め、相対的に議論は行っていない)
- (2) また、関係する団体（飯田市体育協会、ラグビー協会、サッカー協会）へ参加の依頼をしたことから、必然的にその団体からの提案が多く出されている。その団体からの提案も、個人個人でそれぞれの思い、主張がある。施設の建設についても、どの程度の水準の規格に合致した施設なのか、普段の練習のできる施設なのか、興行的施設なのか、専用施設なのか、複合施設なのか、まちまちである。
- (3) 本格的な競技施設について、市民の利用状況、運営や維持管理の状況等を把握しているわけではない。したがって、今回の意見をもとに、社会文教委員会として何らかの集約を行うには、情報不足、研究不足である。
- (4) 一方で、関係する団体はそれぞれの主張があり、また、団体内でも個々それぞれ主張があるため、それを社会文教委員会で調整し、集約することは難しい。
- (5) 市では、飯田市公共施設マネジメント基本方針を策定し、その中で、公共施設の今後のあり方について検討をはじめている。

4 平成 28 年度議会報告会分科会での意見の概要

- (1) 各種団体等からの施設建設要望
 - ア トップアスリートの試合のできるサッカー施設。芝生のグラウンドが必要。
 - イ 国体が開催できる芝生のラグビー場が必要。
 - ウ 少年サッカーでの県大会が開催できるサッカー専用のグラウンドの建設。
 - エ サッカー及びラグビーが使えるグラウンドの建設。
 - オ サッカーと兼用グラウンドになるかもしれないが、高校ラグビー長野県大会の決勝戦を行えるグラウンドを整備。
 - カ トップアスリートが使うものではなく、ラグビー練習ができる芝生（野原のような）のグラウンドの建設。しかも、自転車で行ける範囲に数多く。維持管理は利用団体で行う。
 - キ 全国大会等ができる素晴らしい芝生のグラウンドが欲しいが、サッカーなり、ラグビーなりを普段から楽しめる気軽な芝生のグラウンドが増えるとよい。芝生の維持管理は、使用者や保護者も協力できるのではないか。
 - ク トップアスリートが練習や試合のできる体育館が欲しい。

- ケ グラウンドの数はあるが、体育館はレベルの高い大会や試合ができる施設はない。トップ選手にあこがれてスポーツを始める子もいる。
- コ 県レベル以上の大会（国際大会を含む）を開催できる施設がないので、そういった大会を開催できる施設。
- サ 砂入り人口芝のテニスコートを増設してもらいたい。天龍峡テニスコートを充実させれば、天龍峡の活性化にもつながる。
- シ 松尾グラウンドは養生期間が長く、使えるのは試合だけというのが実態で、養生期間が長い割にはグラウンドの状態が良いわけではない。
- ス 体育館も運動だけに固執せず、運動・文化・芸術・公民館が利用でき、国際的・全国的な催しが開催できる複合文化施設。
- セ 人口減の中で、地域の人達がスポーツに親しめることが大事で、頂点を目指すアスリートのための施設はどうか。種目毎の単独の施設ではなく、市民みんなが体育、運動だけでなく文化的にも使える施設が望ましい。
- ソ 国際大会の開催できる施設も良いが、維持管理費が多額で大変ではないか。

(2) 保育園・幼稚園、小・中学校の園庭及び校庭の芝生化について

- ア 入船幼稚園の園庭は、全面芝生である。維持管理は大変だが、保護者の協力で草取りをしている。このことが結果として地域のつながりとなる。
- イ 校庭の芝生化ができれば最良である。芝生の校庭が学校の魅力となり、都会からの留学にもつながるのではないか。
- ウ 保育園庭の一部を芝生化は可能である。
- エ 公立保育園、保護者からは、これ以上の園事業への参加・協力は難しい。芝生の維持管理について、保護者へのこれ以上の負担をかけることは難しい。
- オ 幼児期については、芝生化より泥遊びが重要。芝生より周りの自然に親しむべき。
- カ 保育園の園庭の一部が駐車場として使われていて、芝生化は無理である。
- キ 保育現場、教育現場での意見を聞くことが必要。
- ク 校庭の芝生化は管理の面で困難である。現状、学校の校庭の維持管理さえできていない。PTAの立場からも管理に協力するのは難しい。
- ケ 小・中学校の校庭の芝生化は、校庭を駐車場等に使用するため難しい。
- コ 芝生は管理が大変。ボランティアでは無理。芝の草取りは年3回でも取り切れない。

(3) スポーツ観戦への意識の醸成

- ア トップアスリートの競技ができる施設の建設には、まず、この地域にそれだけの観客動員が見込まれるかが大切。現に高校野球の予選は、観客が少なく運営費

の収支があわないため、開催されなくなっている。

イ ホームチームを持って応援していこうというのがまだない。

(4) 現有施設の活用を

ア 今の施設の維持管理も困難である状況を市民に認識してもらうべき。

県施設でも統廃合が問題になっている。市民に必要な施設は大規模改修するしかない。

イ 新たな体育館をつくることも良いが、小学校の体育館を改修して使えないか。子どもも少なくなってきた。

ウ 小学校のグラウンド管理は、本来学校が行うべきであって、地域にあまり依存しないようにしてもらいたい。

エ 今あるものを改修して、合宿等の誘致につなげるなど、今あるものの活用を考えるべき。

(5) 広域的な取り組みを

ア 広域連合を含めて施設を考えたらどうか。

イ 伊賀良三日市場に集約して拠点施設を整備したらどうか。

ウ リニアを見据え、飯田市だけでなく南信州全体で考えることでできることもあるのでは。

(6) 現状の体育施設の充足に関して

ア 体育施設について、県内の他地域に比べこれほど施設が不足しているところはない。不足というより、何もない。

イ 人口当たりでどのような施設が一般的にあるのか、客観的データから判断していくべきではないか。

ウ 10 万人都市として、施設の数が多いのか少ないのか。

エ 飯田市はスポーツ合宿におけるハード面で、他地域と比べて劣っているのか。

(7) その他

ア 財政面を考えて行う必要がある。健康増進のためにプラステンやラジオ体操を進めても良い。使用料の減免の見直しをしたらどうか。

5 資料

(1) 28 年度議会報告会の意見交換会に係るテーマについて

(2) 平成 28 年度社会文教委員会所管事務調査（視察）報告抜粋

28年度議会報告会の意見交換会に係るテーマについて

【 社会文教 】委員会

<p>委員会所管のテーマ</p>	<p>体育施設のあり方と活用について －市民の健康増進と将来を担う子どもたちのために－</p>
<p>テーマに係る課題 (背景)</p>	<p>1 南信州広域連合が策定した「南信州広域連合広域計画書(第4次広域計画)」では、リニア中央新幹線開業に向けて望まれるインフラ整備として、「スポーツ施設」が掲げられていて、「スポーツの国際的大会の招致や一流のアスリートを始めとして様々な人々が集う合宿地をめざす」としている。</p> <p>2 公益財団法人飯田市体育協会が策定した「飯田市スポーツ振興ビジョン」では、ビジョンの柱の一つとして、スポーツ施設環境の向上をうたい、「複合文化施設の建設」、「南信州地域内のスポーツ施設の相互利用」を方向性としている。</p> <p>3 飯田サッカー協会では、「サッカー専用グラウンドの建設」との要望が、総合型地域スポーツクラブNPO法人南信州クラブ、飯田ラグビーフットボール協会からは、「ア世界標準であるグラウンドの芝生化、イ平成39年開催の国体が開催できる競技施設(芝生グラウンド2面)の構築、ウ保育園・幼稚園の園庭芝生化」との要望がある。</p> <p>4 27年度の議会報告会において「若者の定住や移住者を増やすには、この地域の自然と健康を売りにする。そのためには、スポーツが大切。この地域には、施設が不足している。総合型(一箇所で様々なスポーツや交流ができる)大型施設が必要である」「飯田市には県レベルのスポーツ大会が開催できる施設が整備しておらず、とても残念だ。リニアが止まる市なので、それにふさわしい施設、若者が残りたくなるような施設を作って欲しい」との意見もあった。</p> <p>5 学校の校庭や保育園の園庭等の芝生化をとの声もある。</p> <p>6 人口減少に向かっていく中で、維持管理を考えていくと多くの施設を抱える状況ではなくなっている。しかも、現施設の老朽化への対応等も必要となってきた。</p>
<p>意見交換会で話し合いたい点</p>	<p>1 今、体育施設が不足していると思いますか。</p> <p>2 県レベルのスポーツ大会、国際的大会が開催できるような、体育施設は必要だと思いますか。</p> <p>3 人口が少なくなってくる中で、今ある体育施設以上に体育施設は必要だと思いますか。</p> <p>4 仮に学校の校庭や保育園の園庭を芝生化した場合、地域やPTAの皆さんが、維持管理や車の乗り入れ等使用制限に協力していただけますか。</p>

飯田市議会 社会文教委員会 所管事務調査（視察）報告抜粋

平成 28 年 9 月 26 日

第 1 調査実施期日

平成 28 年 6 月 30 日（木）・7 月 1 日（金）

第 2 調査事項（視察先及びテーマ）

3 保育園園庭芝生化事業・幼稚園園庭芝生化事業について 長野県松本市

第 3 参加者

社会文教委員長 新井信一郎、社会文教副委員長 清水可晴、
竹村圭史、福沢清、後藤荘一、中島武津雄、村松まり子の各委員

第4 調査概要（視察報告）

3 保育園園庭芝生化事業・幼稚園園庭芝生化事業について 長野県松本市

(1) 調査概要（視察目的・視点）

ア 日時 平成28年7月1日（金）14:30～15:30

イ 場所 松本市 小宮保育園

ウ 説明者 松本市 こども部 保育課 課長 平林 泉氏
課長補佐 田中 忍氏
技師 佐藤 博氏

エ 調査概要（視察の目的及び視点）

- (Q1) 園庭芝生化の経緯、内容、効果、課題について。
- (Q2) 芝生化にあたっての課題について。
- (Q3) 園庭芝生化後の子供の反応、保育内容の変更、保護者の反応について。
- (Q4) 維持管理の方法、維持管理の主体について。保護者や地域の関わり方について。また、NPO法人の関わりについて。
- (Q5) 維持管理に関し、養生期間が必要だと思うが、その間の園庭使用はどうしているか。また、駐車場等に園庭を使用をすることも想定されるが、その対応は。

(2) 調査報告（調査内容）

Q1-1 園庭を芝生化することになった経緯は。

A1-1 保育課の基本施策である「保育環境の充実」の一環として、芝生を活用して園児の外遊びの頻度を増やし、運動能力の向上や身体づくりのために園庭の芝生化を進めている。平成24年度は試験的に4園（里山辺、波田ひがし、南松本、小宮）で園庭の一部芝生化を実施した。その後、平成26年度は19園（内幼稚園3園）を実施、平成27年度は16園を実施し、累計整備園数は39園（内幼稚園3園）となっている。今後の芝生化工事については、園舎の新築・改築等の大規模工事と芝生化工事が2年続くことがないように配慮し、芝生化工事は大規模工事実施年度の翌々年度に実施する計画でいる。よって、平成29年度に1園、平成31年度以降に3園を実施する予定でいる。

Q1-2 園庭芝生化の内容は。

A1-2 芝生は1園平均A=150㎡、スプリンクラー2か所（配管工事含む）、水道小メーター設置である。芝生化は園庭全面ではなく、園庭の一部となるトラックの内側のみとした。工事費は、1園平均120万円である。

Q1-3 園庭を芝生化したことによる効果は。

A1-3 園庭の一部芝生化に関連して、平成24年度と平成25年度の2か年をかけ、園児に万歩計を装着し試験的に芝生化した2園と未芝生化の8園において万歩計による活動量（園児の1日の歩数）調査を行い比較した。

(子供の生活習慣改善事業の運動遊びプログラム作成を目的に実施)その結果、未芝生化の8園平均の活動量の伸びが約6%であったのに対し、芝生化した2園平均の活動量の伸びは約30%と大幅に増加したとの結果を得ることができた。このことから、芝生化により園児の活動量の増加につながることを確認することができた。

Q1-4 園庭芝生化における課題は。

A1-4 (回答はA2参照)

Q2 芝生化にあたっての課題は何であったか。

A2 松本市の気候に合わせた芝の選定である。松本市の気候に照らし合わせ、西洋芝寒冷地型を採用した。しかしながら、安曇・乗鞍・奈川の3保育園は標高が高いため芝生化の予定はない。また、散水用スプリンクラーの敷設工事は保育に影響が出ないように、園児が休みとなるゴールデンウィークに実施した。

Q3-1 園庭を芝生化したことによる子供の反応は。

A3-1 園庭に緑があることで、園児や保護者の気持ちが落ち着く、外遊びの機会の増加、運動能力や体力の向上に繋がっている。また、園児が生き物や植物に好奇心をかきたて触れ合う機会が増加した。

Q3-2 園庭を芝生化により保育内容の変更はあったか。

A3-2 保育内容に変更はない。

Q3-3 園庭を芝生化したことによる保護者の反応は。

A3-3 保護者会の作業に合わせ芝生の管理を行うことにより、保護者の連携が強まった。

Q4-1 芝生の維持管理方法は。芝生の維持管理を行う主体は。芝生の維持に関し、保護者や地域の関わり方は。

A4-1 専門的な維持管理(化学肥料散布・液肥散布・混合目砂すり込み・エアレーション・オーバーシード・発芽抑制剤散布・散水スプリンクラー点検)は、指名競争入札により業者を選定(委託化)し実施している。年間の維持費は、1園平均30万円である。また、日常の維持管理は保護者会と保育園・幼稚園職員で草取り作業・芝刈り作業・散水作業を行っている。芝刈り作業は保育園・幼稚園によって違いはあるが、およそ1回~2回/週の頻度で行っている。

Q4-2 芝生の維持管理にあたり、NPO法人の関わりはあるか。

A4-2 専門的な維持管理は業者委託、日常の維持管理は保護者会と保育園・

幼稚園職員で行っているため、NPO法人との関わりはない。

Q5-1 維持管理において養生期間が必要だと思うが、その間の園庭使用はどうしているか。

A5-1 種まきは5月中旬～6月初旬、芝育成期間は5月中旬～8月下旬となり、その期間は対象区画をロープで囲い立ち入り禁止とした。よって、その期間は芝生化した以外の場所を使用した。

Q5-2 駐車場等に園庭を使用をすることも想定されるが、その対応は。

A5-2 小宮保育園においては、園庭に車を乗り入れることができないため駐車場に使用することはない。(現地視察の結果)

(3) 主な質疑応答 (○：飯田市議会 △：松本市)

(ア) 芝生化にあたっての基本的な考え方について

○ 芝生化の範囲の考え方は。

△ 当初は全面芝生化も視野に入れていたが、全面芝生化すると初期（芝生化）費用および維持費をあわせるとそれなりの金額がかかる。園児が運動するというスペースを考えたときに、①運動会でのトラック使用を考慮 ②トラックの内側だけでも園児が飛び回ったりするスペースを確保できる ことから、トラックの内側のみを芝生化することとした。

○ 芝の種類は。

△ 長野県の気候・風土に合った芝ということで、西洋芝寒冷地型を採用した。この芝は、冬季においても芝が枯れず青々としていること、気温が5℃以上であれば成長していくことが特徴である。

○ 芝の生育にあたり限界標高というものはあるか。

△ 限界標高というよりは、芝生化する場所における（芝の種類にあった）年間平均気温を維持できるかということが重要である。

(イ) 芝生化の工事内容について

○ 水道の子メーターを設置しているがその理由は。

△ 上水道使用量＝下水道使用量が基本的な考え方であるが、芝への散水に使用すると下水道に流れないことから、散水で使用した上水道使用量を下水道使用量から減免するために子メーターを設置している。

○ 工事予定なしの保育園が3園あるがその理由は。

△ 対象3園は山間地（寒冷地）で標高はそれぞれ安曇保育園 EL=815m、乗鞍保育園 EL=1,329m、奈川保育園 EL=1,103mである。小宮保育園が EL=598m、松本市役所が EL=592m、松本駅が EL=585mで中心市街地と比べると標高が高く芝

生化が厳しいこと、県の認定事業による山保育の実施、園庭を芝生化して自然に親しまなくても周辺には十分な自然環境が整っているという特色があることも加味した。

(ウ) 維持管理作業について

- 芝刈りは1回/週ということであるが、散水や草取りも同じ頻度で行っているか。
- △ 散水はスプリンクラーをタイマー設定し自動で行っている。草取りは、草が盛んに生える時期は保育園の職員を中心に作業を行うが、保護者会にも手伝ってもらっている。
- 専門的な維持管理は全園平均して30万円くらいの維持費がかかっているということによいか。
- △ 基本的な維持管理内容は決めてあるので、1園あたり平均して30万円くらいの維持費がかかっている。平成26年度決算の実績では、対象が20園であったことから維持費は総額で約600万円の支出となった。ちなみに、松本市の市営サッカー場の年間委託経費（維持管理）は約400万円である。
- 保護者は維持管理作業に年間どのくらい出動しているか。
- △ 夏場でも保育園の職員が1回/週芝刈りを行えば十分間に合う。（若い職員は、筋力トレーニングも兼ねて手押しの芝刈り機にもかかわらず走って作業を行っている）保護者には、保護者作業に合わせて草取りも一緒に行ってもらうことから、芝生の維持作業単独で作業してもらうことはない。
- 芝生化した場所と土の部分では園児の遊び方や保育のカリキュラムに違いはあるか。
- △ 芝生の上では、サッカー教室（松本山雅の運動教室）、裸足での走り回り、未満児の這い這い、竹馬などをしており、園児は喜んでいる。特に裸足活動は多くなっている。

(エ) 私立保育園・私立幼稚園・認定こども園について

- 私立保育園・私立幼稚園・認定こども園は何園あるか。
- △ 私立保育園が5園、私立幼稚園が13園、認定こども園が4園の計22園である。このうち、平成29年度までに芝生化を実施済みもしくは計画する園は5園である。
- 私立保育園・私立幼稚園・認定こども園においても公立保育園・公立幼稚園と同様に芝生化の範囲はトラックの内側のみであるのか。
- △ 私立保育園・私立幼稚園・認定こども園の考え方により、芝生化の範囲はま

ちまちである。芝生化にあたり、公立保育園・公立幼稚園の一部では園児に種まきから行わせるところもあるが、今年度実施した私立幼稚園では芝のロールを購入し敷き詰めることで養生期間を短くし、かつ園庭全面を芝生化した。

- 私立保育園・私立幼稚園・認定こども園について、芝生化と同様に維持管理費も補助交付金要綱により1/2の補助金を交付しているのか。
- △ 維持管理費は補助金交付対象外である。あくまでも施設整備に関する部分のみである。

(4) まとめ・考察

- (ア) 公立保育園・幼稚園における園庭の芝生化は全面ではなくトラックの内側平均A=150㎡ということであったが、以上児・未満児共に芝生化したことにより活動量が増加してきていることを数値ないし職員の実感として把握できた。
- (イ) 芝生化にあたっては、その土地の気候・風土に合った種類を選択することが重要であることが認識できた。
- (ウ) 芝生化するにあたり、種まきを業者任せではなく希望すれば園児も酸化する事ができる取り組みは、小さいながらも「自分たちが種をまいて育てた芝生」という意識を醸成することができ、そのことが「物を大切に扱う」ということに結果として繋がっていくのではないかと考える。もし、当市でも同様な取り組みを行うのであればぜひ参考にすべきであると考えます。
- (エ) 芝生整備後の維持管理のあり方については、当地域においてはNPO法人の存在もあることからもう少し他市の事例を調査研究すべきではないかと感じる。
- (オ) 当市において、今後園庭の芝生化についてどのように取り組んでいくかという一つの判断材料になったと考える。

(文責：竹村 圭史)

(5) 各委員の所感

ア 良かった点

委員名	内容
新井信一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・規模は小さいが、ほぼ全園にて取り組んでいること。 ・利用者があまり過度な負担感を感じない分業ができていること（金銭的負担は掛かるが、専門業者の利用） ・サッカー元 J1 山雅のお膝元。児童や子ども達の憧れの一部ではあるが、身近に感じられる施設整備 ・軽微な作業かもしれないが、保護者間のコミュニティー醸成の時間の共有
清水可晴	<ul style="list-style-type: none"> ・視察した小宮保育園では平成24年度から市の施策として初めて取り組ん

	<p>だ試験保育園である。昨年度までに 36 園が芝生化された。園庭内の中心にだ円型に芝生化している。150 平米に、散水施設と西洋芝寒冷地型をまいた。</p> <p>子供の歩数計が 30%増加し効果を上げている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置工事費が 120 万円、維持費は年間 30 万円。民間保育園には 50%補助を出す ・芝生では、サッカー、竹馬など裸足活動、ゼロ歳児のハイハイなどや、山雅のサッカー選手との交流もある。保育環境の充実では特質する
竹村圭史	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化することにより、園児の活動量の増加が具体的な数値で確認することができた点は良かった ・芝の種まきを業者任せではなく、希望すれば園児も一緒に体験できるようにしていることは、小さいながらも「自分たちで種をまいて育てた芝生」だから大切に扱おうという意識を醸成することに繋がる良い取組みであると感じた
福沢 清	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園児の遊びにプラス効果がある
後藤荘一	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの活動量が芝生化によって上がっていることが調査によってわかった
中島武津雄	<ul style="list-style-type: none"> ・松本市の私立保育園(旧市)の全園に芝生化の計画あり ・効果としては園児の屋外での運動量が 30%増えた ・緑が目優しい
村松まり子	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育環境の充実」を目標設定とし、芝生を活用して園児の外遊びの頻度を増やし、運動能力の向上や身体づくりのために園庭の芝生化を進めている ・芝生化により、運動量が 30%上がっている

イ 参考となりそうな点

委員名	内容
新井信一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・規模は小さくても実行したこと ・実際、児童が外で遊ぶ時間が増え、健康的増進に寄与している
清水可晴	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭全部ではなく、部分的に芝生化しており、費用対効果や管理の面も参考になる ・散水は、午後 4 時と午後 8 時の一日 2 回。自動散水している。子メーターを付けて下水道料金に反映していない ・野外でのびのび保育し、子供の体力向上に効果が上がっている
竹村圭史	<ul style="list-style-type: none"> ・最小限の初期投資と維持管理費であるにもかかわらず、保護者会および園の職員による芝刈り・除草で芝がいい生育状態を保っている点は参考にできるのではないかと感じた。取り組み(ストーリー)を学べた点
福沢 清	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての園での芝生化が進んでいる点

後藤荘一	・トラック内の芝生化で良さそう。工事費120万円、維持費30万円/年は参考になる
中島武津雄	・視察した小宮保育園では園庭前面ではなく園庭内のトラックの内側を芝生化しており、他の園も全面ではないとのことで費用の軽減と早期の芝生化が可能となっている
村松まり子	・園庭芝生化工事内容と維持管理（事業委託） ・芝刈りや散水雑草取り等を、保育園と保護者で対応していること ・私立保育園・幼稚園・認定こども園への事業費の補助

ウ その他、感じたこと等

委員名	内容
新井信一郎	・それぞれの考え方はあるだろうが、園庭規模であれば、前面芝生化して、素足から得る健康的発育と怪我率の減少へ拡大はいかがだろうか ・規模は小さいが、維持管理費が少ない
竹村圭史	・芝生化により保護者の連携が深まったという点は、人との繋がりが希薄になりがちな都市部において効果があったのではないかと感じた
福沢 清	・財政面で今後、市全体での取り組みが進んでいくかどうか
後藤荘一	・困難なところを除いて公立全園に芝生化を進めている松本市は子育てに熱心な印象を受けた
中島武津雄	・松本市の子供たちに元気に活動して貰いたいという意気込みを感じた
村松まり子	・園庭の芝生化によるメリットから考え、飯田市も検討すべき